

ひと

有事に役立つ鑑定士の輪

日本不動産鑑定士協会連合会の会長に就任し展望を語る

吉村 真行さん

令和元年の総会で会長に就任した。鑑定制度が始まった昭和39年に生まれ、地価公示導入50年という節目の会長就任に、「新時代を迎えた今こそ専門家として求められる役割と使命を果たしていかなければならない」と覚悟している。

「業務拡充・人材育成・地位向上」という不動産鑑定に関わる3つの所信を掲げた。そこに近道がないことは東京都不動産鑑定士協会会長を務めてきた自身が誰よりも痛感している。「具体的な形とする、新たな道を開くことを心掛け、一つ

ひとつ着実に取り組んでいく」と話す。

鑑定士の最大の強みであるアプレザル（鑑定評価）を生かして、アナリシス（分析）、アドバ

イザリー（助言・提案）を提供する「3A」のビジネスモデルは、自身が座長を務めた不動産鑑定業将来ビジョン研究会が8年前に報告、提言したもの。「この

ビジネスモデルを更に深耕し、国内のみならずグローバルな場で実践の機会を広げていく」とし、その先に「社会に根差した持続的な鑑定評価制度の確立」を見据えている。

一方「不動産の価値判断ができる専門家、実務家であるばかりでなく、『有事の時こそ役に立つ専門家』であるべき」という信念の

元、頻発する災害の支援活動には精力的に取り組んでいる。西日本豪雨では、初めて国から連合会に支援協力要請があり、現地の鑑定士会と一丸となって被災地支援に取り組んだ。昨年、連合会は災害対策小委員会を災害対策支援特別委員会に格上げ。会長職と同委員長の二足の草鞋を履く。

「壊れた建物や土砂災害で崩れた土地を評価するのも鑑定士の社会的使命」

こうした社会貢献活動に傘下の会員の輪も広がる。先の総会では、国土交通大臣から連合会をはじめ被災地各地の多くの鑑定士会、鑑定士が表彰を受けた。国民生活に役立つよう会長職を全うしていきたい」と抱負を語る。（市川佳之）

